子どもの本のひみつ

Vol.4

題字・イラスト　陣崎草子

言わせて！

2018年7月20日、東京神保町のブックハウスカフェで、「連続トークイベント　子どもの本のひみつ④」が開催されました。トークゲストは林木林さんと本間ちひろさん。ご自身の詩作品の朗読から始まった楽しいお話の中からほんの少しだけご紹介を…。

Chihiro Honma

タンザニアの昔話絵本『ごちそうの木』、表紙の題字を書きました。そこから、アフリカ、楽器のリンバ…と関心が広がって。こういう**新たなきっかけを与えてくれるので、仕事って、楽しい**です。

（どうして、子どもの文学で、詩や絵本を書いているのですか?）

Kirin Hayashi

アメ玉をずっと舐めるように…**ひとつの言葉を愛おしんでいたい気持ちがあって。素朴に言葉を愛している**ので、子ども向けとかはさほど考えずに、言葉を楽しみながら、仕事しています。

（どうして、子どもの文学で、詩や絵本を書いているのですか?）

ビジュアルでいうと、写真と動画の違いに似ています。動画はたくさんの絵が流れることによって伝える―それが絵本だとすれば、詩は写真。**一瞬を切り取ることによって伝わるものがある。**

（絵本のことばと詩のことばの違いって?）

自分の中の一番大事なピュアな部分―子どもの時の自分と会話できる。「嘘つき」でないと生き辛いことがたくさんあるので…子どもの時の素直な、正直な気持ちになって、心を解放してあげるってことでしょうか。

（どうして、子どもの文学で、詩や絵本を書いているのですか?）

詩は、キラキラした、装飾のような言葉を書くのが、好きです。絵本は、その、書きたい部分が絵に持っていかれちゃって…「絵で表現するのでカットして」って。そこを何とか入れられないか、いつも、こっそり探っています。

（絵本のことばと詩のことばの違いって?）

言葉で書く前に、リズムやメロディー、からだの揺れがあって、それで詩を書いていきます。生活の中にはメロディーやリズムがあって、生きている。そういう幸せを伝えられたらと思います。

（絵本のことばと詩のことばの違いって?）

フライパンの取材に行った時、溶けて流れる鉄を初めて見て、それまで自分が、鉄という言葉を固まった冷たいものとしてしか、使っていなかったと気がつきました。**モノ、人、言葉に向き合うと、自分の中でその意味が変わる時がある。**その変化も、詩の「種」になります。

（詩や絵本の種は、どこで拾うのですか？）

自分の首の骨のレントゲンを見た時、光が透けて、後光が射しているように見える首の骨の美しさに感動…神秘を感じました。**自分のからだの中に、こんなに美しいものが埋まっていて、こうやって、動いてくれていたのかと。**

（詩や絵本の種は、どこで拾うのですか?）

直接的に「平和」という言葉はなくても、**どこかで平和につながるような本に関わっていたい。**逆にもし、平和につながらないと感じたら、その案件からは、遠慮させてもらうかも。「何をするか」と同じくらい「何をしないか」も大切。だから私、ちゃんとバイトもしてるんですよ。

（作品とメッセージ性、社会性について）

絵本はメッセージ性の強いものばかりでも面白くない。ことば遊びみたいなのと両方バランスよく出していけたら…。**ことば遊びでメッセージ性のある絵本、詩の美しいことばでことば遊び、いろいろやってみたいです。**

（作品とメッセージ性、社会性について）

嫌いな詩に出会うと、好きな詩も生まれる。「ケーキ」ばかりじゃなくて、私は「ゴボウ」も「ナス」も食べたい…。**いろんな詩にふれていただきたくて、詩の朗読イベントを９月からはじめます!**

（詩の読者層を広げる可能性について）

実は、みんな、詩が好きなのでは?

一般に読まれないというのは、作品に読者に伝わる何かが足りないか、読者の手に届けるシステムが何か足りないか…そこらへんがうまくいけば、目から鱗で、詩って面白いですねって。

（詩の読者層を広げる可能性について）

林 木林（はやし きりん）

山口県生まれ。詩人、絵本作家、作詞家。『詩のボクシング』全国大会優勝。詩集に『植星鉢（ぷらねたぷらんた）』（土曜美術社）。絵本に『はやくちまちしょうてんがい はやくちはやあるきたいかい』（偕成社）『あいうえおんせん』（くもん出版）『ねばらねばなっとう』（ひかりのくに）など言葉遊びの楽しい作品から、『二番目の悪者』（小さい書房）など大人にも愛される作品まで多数。『くまさんどこ？』（講談社）など絵本の翻訳も手がける。

『あかり』

（岡田千晶・絵　光村教育図書）

ひとりの女の子が生まれた日、初めて火を灯してもらった一本のろうそく。やわらかなあかりで女の子を見守る、ろうそくのモノローグが胸に沁みる。「命をテーマに絵本を」という依頼に、「どんな時も、どんな人にも、その人を照らす光があるはず。かけがえのないあかりを見つけてほしい」という林木林の思いが重なって生まれた作品。このろうそくのように、誰かにとっての小さなあかりになれたら、とも思わせてくれる。

『せかいいちのいちご』

（庄野ナホコ・絵　小さい書房）

ある冬の日、シロクマのもとに届いたひとつぶのいちご。生まれて初めていちごをもらって、シロクマは喜んで踊ったりうっとり見つめたり。その後毎年いちごが届き、その数はふえていくけれど・・・とびきりのひとつぶと出会った最初の感激は、忘れることができない宝物。だれもが、大人になっても、そんな出会いを心のどこかで求めている。愛らしいいちごの後味は、意外にもちょっぴり苦い大人の味だ。

本間 ちひろ（ほんま ちひろ）

神奈川県生まれ。東京学芸大学大学院修了。詩人、絵本作家。2004年『いいねこだった』（書肆楽々）で第37回日本児童文学者協会新人賞。絵本に『おむすびにんじゃのおむすびぼん』（リーブル）、絵本翻訳に『どんなきもち？』（西村書店）、挿絵に『注文の多い料理店』（にっけん教育出版社）など多数。『ピッピちゃん、こんにちは』（西村書店）では企画・編集も手がけた。絵本と音楽、手話などを楽しむ表現ワークショップでも活躍。

『いいねこだった』（書肆楽々）

児童文学者協会新人賞の詩画集。詩と絵のマリアージュがみずみずしい本間ちひろの原点。書名となった「いいねこだった」と「きずつけないように」「どこにいるのか」の三部構成。「いいねこだった」は、亡くなったとらねこと、そのねこを幼いころから描いてきた私を、言葉と線画とで綴っている。「糸をつむぐように線を描く　これが　／　私のとむらうという形かもしれない」と閉じていて、眠れない夜にそっと開きたい本だ。

『おむすびにんじゃのおいしいごはん』

（土井善晴・監修　リーブル）

おむすびにんじゃとこむすびちゃんが、稲刈りしたお米で「ごはんをたこう」とはりきるお話。台所で料理をしていると即興の歌がしぜんと口をついて出てくる、という本間ちひろらしく、「おなかがへるよ　はらぺこ　ホイ」と歌いながら、意外と知らないご飯の炊き方の基本を教えてくれる。楽しく作って楽しく食べる、というおいしさの秘訣も、おむすびにんじゃたちの表情で伝授。続編に『おむすびにんじゃのおむすびぼん』。

ここ行ってみよう！

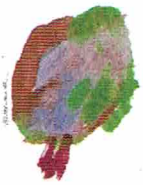
神田神保町の古書店ワールド

「こどもの本のひみつ」第四回会場は、東京は神田神保町。世界最大の古書店街として有名なところです。JR御茶ノ水駅を南へくだり、靖国通りを経由して水道橋駅へ向かう間に百七十を超える古書店が散在しています。便利なのは地下鉄三本が乗りいれる神保町駅で、降りるとちょうど街のど真ん中にある芸術系の映画館「岩波ホール」の交差点を中心にしてたくさんの店を見て回ることができます。今回は厳選してご紹介いたします。

まずは神保町駅から靖国通りを西へ。歩いて一分もない神田古書センターというビルの五階には、児童書専門の古書店「みわ書房」があります。絶版本を探すのにうってつけです。さらに西へ歩いた最初の別れ道にあるレトロな建物は「矢口書店」。新旧の舞台・映画などのシナリオ台本が並んでいます。さらに西へ歩き次の別れ道が来る直前に、今回の会場だった「ブックハウスカフェ」があります。広い間口の両端に洋風の大きな柱が立っていて、以前は洋書の「北沢書店」のビルでした（今は二階にあって、螺旋階段でどうぞ）。一階のフロアの真ん中が広くカフェスペースになっており、それをぐるっと囲むように子どもの本がたくさん並んでいます。

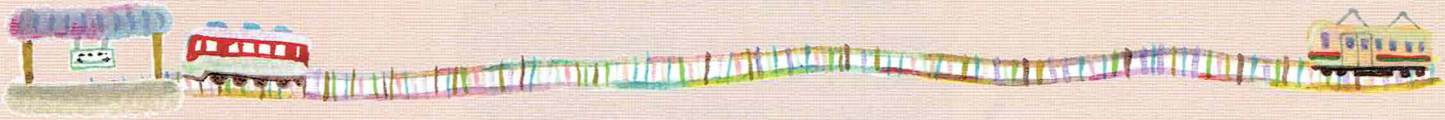
最初の交差点に戻って今度は通りを東へ。信号を渡ってすぐの「大雲堂書店」は、神保町オフィシャルサイトでも古書店めぐりの起点となると書かれるほどで、関東大震災前の創業。広いジャンルの本を扱っていますが、出色は地下にある歴史棚です。真贋幅広い説の旧書を探すときはこちらが便利。同じブロックの東端にある「小宮山書店」は、絵画集や写真集の並ぶ二階からちょっとずつ階段で登っていくのが楽しいお店です（芸人で小説家の又吉さんがロケで行ったので知っている方も多いかも）。東へ更に歩くと「三省堂書店」が見えてきますがその直前、カーブを曲がるところにあるのが「八木書店」。和書に強いところで最近「群書類従」を全テキスト化しネットに公開しました。

靖国通りの東西を二瞥したところで、本当にディープなのは入り組んだ裏通りにある多種多彩な古書店ワールド。新しいお店が出来ては消えしますから、古本好きなら毎日通いたいところ。いくつも紹介したいのですが、それはまたいつか。行ってみたい人は神田神保町オフィシャルサイトで地図をダウンロードできますよ。



●神田神保町オフィシャルサイト　http://jimbou.info/index.htm

児文協研究部「連続トークイベント　子どもの本のひみつ」編集後記



日本児童文学者協会・研究部の企画した連続トークイベント「子どもの本のひみつ」をまとめたこのフリーペーパーも4号となりました。これまでの記事担当は右記の研究部のメンバーです。また、題字やイラストの陣崎草子さん、紙面レイアウトの田中嘉和さんにも、たいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます。今後また、連続トークイベントが開催されましたら、フリーペーパーも続けたいと思っていますが、さてどうなるでしょうか……。ひとまず、これまでのご愛読、ありがとうございました。

- 濱野京子　（「目白池袋界隈散歩」vol.1）
- 新藤悦子（「甲府から湯村温泉へ」vol.2、作家・作品案内 vol.4）
- 井上征剛（「言わせて！野坂悦子×濱野京子」vol.2）
- 相川美恵子（「言わせて！ひこ・田中×目黒強」vol.3）
- 小林雅子（作家・作品案内 vol.1、「言わせて！林木林×本間ちひろ」vol.4）
- くぼひでき（作家・作品案内 vol.3、「神田神保町の古書店ワールド」vol.4）
- 奥山恵（「言わせて！新藤悦子×陣崎草子」vol.1、作家・作品案内 vol.2、「京都伏見から鴨川、東山へ」vol.3、編集後記 vol.4）

「子どもの本のひみつ」vol.1～3は，日本児童文学者協会事務局や児童書専門店などで配布しています。

発行　日本児童文学者協会　研究部　　2018年11月